

# 第52回 卒業式 第41回 大学院学位記授与式



3月20日、第52回卒業式・第41回大学院学位記授与式が挙行された。この日は晴天に恵まれ、1817名の卒業生、修了生が旅立ちの日を迎えた。

式典で、犬井正学長は「本日卒業・修了する皆さん方は、活躍する場所や内容がどのようなものであっても、グローバルな視点を持ち、情報を分析し、決断し、行動することが求められます。人生を先手、先手で積極的に設計し、自分を磨く努力を怠らないでください」と式辞を述べた。続いて、寺野彰獨協学園理事長は「世界が国際的に重大な局面を迎える中、発想の転換が求められています。大きな誇りと高い志をもって、社会で大いに活躍してください」と述べ、卒業生を激励した。さらに、須藤明弘一般社団法人獨協大学同窓会長より「獨協人たる卒業生の皆さんは、すべからず本質を見抜いて流されず、社会での優等生を目指し、新しい時代を力いっぱい歩まれることを祈念します」とメッセージが送られた。

卒業生を代表し、吉田佳実さん(言語文化学科)は「私達卒業生は、世界を取り巻く未解決の問題と向き合うことが求められて

います。これまでの大学生活で培ってきた知識や経験を生かし、一つでも多くの課題を解決できるよう努力し続けることをここに決意します」と答辞を述べた。



学位記取得者は次のとおり。( )内は総代氏名。

**学 士** 独102名(松島瑞季)、英238名(松卓馬)、仏97名(趙萌琦)、交130名(大田桜)、言154名(園原愛子)、済273名(新井雄貴)、営319名(西村里奈)、環129名(中嶋萌絵)、律219名(高木偉央)、国関法81名(齊藤元)、総69名(郡司遥加)

**博 士** 外国語学研究科英語学専攻1名(高林友美)

**修 士** 法学研究科2名(関根亮介)、外国語学研究科2名(近藤晏奈)、経済学研究科1名(段确)

## 犬井 正学長式辞 (抜粋)

本日はご卒業・修了おめでとうございます。獨協大学の教職員一同、皆さんのご卒業・修了をお祝い申し上げます。会場にお越しのご家族の皆様方にも、心からお祝い申し上げます。

在学期間を振り返ってみれば、おそらくあつという間の大学生活だったような気がするのではないかと思います。この間に、皆さんの知識の量や技能、論理の力は、大きく成長したものと思います。また多くの友人や恩師を得るなど、皆さんの生活の幅は随分と広がり、豊かな人間性が育まれたものと思います。このたび学部を卒業する学生の数は、合計で1811名になります。うち留学生は8名です。また、修了される大学院生は5名になります。そして、博士号の学位記受領者が1名います。

獨協大学はカント哲学の泰斗として知られる天野貞祐先生を初代学長として、1964年に草加の地に開学してから55年を迎えました。そして獨協大学の母体である獨協学園の前身・獨逸学協会学校は、1883年(明治16年)に、当時の日本を代表する啓蒙思想家西周先生を初代校長として誕生してから、本年で136年が経ちます。皆さんは本日から、獨協大学55年の歴史と獨協学園136年の歴史を掲げて、誇りと自信をもって社会人としての歩みを始めることとなります。天野貞祐先生が掲げられた「大学は学問を通じての人間形成の場である」というのが、本学の揺るぎ無い建学理念です。大学は単に学問を教授する場ではなく、教える者と学ぶ者が一体となって、人間形成という営為を成し遂げる場なのだ

ということです。「人と自然と建物が調和する」緑豊かなこのキャンパスで4年間、皆さんはどのような学びを究め、どのように人間性を高めることができたのでしょうか。伝統を重んじるとともに、新たな動きに対応できる心構えを常にもつことが大切です。

社会をめぐる状況が内外ともに不確実で不安定な時代においては、自分の身に何かが降りかかっても、しなやかに立ち直る力、すなわちレジリエンスが大事です。英語のresilienceは日本語では回復力、再起力、弾力性などと訳されています。激変する時代で生きるには、変化に折れない心の強さを身につけ、変化をばねに成長する力が求められます。そして、現状の仕組みや、私たちの思考方法を根本から疑う視点も持ち合わせなければなりません。私たち獨協大学の教職員も、伝統に甘んじることなく常に変革を追求しながら、魅力と特色のある大学づくりを行っていくと決意をしています。卒業生の皆さん方も、それぞれの夢や希望をしっかり持ち続け、自らを磨き上げて、やがて訪れるチャンスを確実に掴み取って下さい。

